

第5回鎌倉市市民活動推進委員会 議事録

- 日時 令和2年7月27日（月）18:00～19:00
- 場所 福祉センター2階 第1・第2会議室
- 出席委員 原田委員長、土屋副委員長、東樹委員、田島委員、西畑委員、相川委員、水澤委員、村井委員、山口委員（以上委員9名出席）
- 事務局 市民生活部：齋藤部長、曾根次長、荻田課長補佐、加藤職員、大島職員
- 傍聴者 なし

開会

- （報告事項）令和2年度市民活動の推進に係る事業について
事務局から令和2年度市民活動の推進に係る事業について報告。
（委員長）新型コロナウイルスの影響で事業の縮減や見送りが発生しているとのことだが、どの位の影響があるか。来年度以降も影響がありそうか。
（事務局）市の予算は、事業所や個人からの住民税などが主な財源となっている。前年の所得に対して翌年度課税されるという仕組みの中では、来年度、税収の落ち込みという形で実質的な影響が出てくるだろうと予想される。そのため、今年度だけではなく、来年度も影響があるのは必至な状況であると考えている。
再来年度以降についても、市内経済の回復状況がどうなってくるのか、税収の見込みがどうなってくるのかというところであるが、少なからず影響が出てくると思われる。
現在の状況については、4月以降、新型コロナウイルス対応で補正予算を組んで対応に当たっている。財政調整基金を取り崩して新型コロナウイルス対策に充てているが、それでも足りないため、一般財源の圧縮を図り、財源を捻出している状況。一般財源の圧縮に当たり、事業の縮減、削減、見送りという形で全庁的に対応しているところである。
（委員長）かなり厳しい状況であるようだ。本指針にかかる事業についても、長期的にみる必要があるということになってくるのだろう。
- （議題1）（仮称）市民活動及び協働の推進についての指針案について
事務局から資料2「（仮称）市民活動及び協働の推進についての指針素案に対する意見」、資料3「（仮称）市民活動及び協働の推進についての指針素案 タイトルについて」、資料4「（仮称）市民活動及び協働の推進についての指針（素案）」に基づき説明。
（委員長）事務局から説明のあった内容について、意見等はあるか。
（委員長）資料2について意見がなければ、資料3の指針タイトルについて検討を進めていきたい。
（委員）（仮称）の際の名称は「市民活動及び協働の推進～」となっていて、資料3の①の案では「市民活動と協働を推進～」となっている。「及び」と「と」の違いは重要になってくるのではないか。
（委員長）「及び」の方が良いのでは、ということか。
（委員）「と」の方は意味的に「With」に見えてしまうのではないかと感じた。「and」になるには「及び」が良いのではないか。

(委員) 「と」と「及び」を意識的に使い分けて提案したわけではなかった。言葉的にどうなのだろうか。

(委員) ①案はとても収まりがよく、いい案だと思った。ただ、市民活動支援と協働は別のものであるので、「と」で繋げると、一緒くたになってしまうのかなと感じた。

(委員) そこにこだわりはなかったなので、皆さんの意見で適切な方に決めていただけたらと思う。

(委員長) 趣旨としては、市民活動と協働は比較できるものではなく、次元が違うものであるから、「と」ではなく「及び」がふさわしいのでは、ということでしょうか。

(委員) 「市民活動と一緒に協働する」というように受け取られる可能性があるので、「市民活動及び協働を推進するための指針」の方がスッキリするのかなと思った。

(委員) さいたま市の指針名（「市民活動の推進」と「市民と行政の協働の促進」に関する指針）が丁寧だ感じたが、やや長いので、それなら「及び」で繋げたらいいと思う。また、名称が長いということであれば、つながる鎌倉条例の指針でも良いのではないかと思った。

(委員) この指針はつながる鎌倉条例の指針であるが、①案はそれをあえて（仮称）の方に戻しているというイメージがある。つながる鎌倉条例が愛称的であってわかりにくい、といったことを感じての提案であるのか。それとも、指針の名称というものは元々そういうものなのか。つながる鎌倉条例の指針であるので、そこはあえて新しい名前を考えるものではないかと思っていた。

(委員) ②案はそういう考えで提案した。つながる鎌倉条例が主題で、副題として市民活動の推進、協働の推進といった内容を入れたら良いのではないかという考えである。

(委員長) 事務局の考えはどうか。市の規定等で問題はるか。

(事務局) つながる鎌倉条例第 10 条において、この委員会の所掌事務として「この条例並びに市民活動及び協働の推進についての指針に関する事項」と定められている。今回は、第 10 条の「市民活動及び協働の推進についての指針」の名称を議論していただいている。

(委員長) 例えば「つながる鎌倉条例の指針」を主題として、副題を「市民活動と協働を推進～」等とするか、もしくは主題と副題を入れ替えるか。

(委員) どちらでも良いが、「つながる鎌倉条例」とは別の名称をあえて考える必要があるのかわからなかった。

(委員) 条例と指針は対のもの。そこがわからないといけないのではないか。

(委員) つながる鎌倉条例という名称は制定時に批判もあったのだと思う。例えば「つながる」とはどういうことか、などそういった議論もあったのではないか。市民の方がパッとわかるように、との思いで提案したのが①の案である。

(委員) 元々の条例名は日本一長い条例名にしようということでも長かったが、批判もあり、更に議論を重ねて「つながる鎌倉条例」になった。この指針が全然違うものだとなくなってしまうと困るので、どこかに残しておかないといけないと思う。副題で「市民活動を～」と入れるのはいいと思う。

(委員長) 「推進するための指針」という内容を主題か副題で入れるということでしょうか。

「と」か「及び」かはどちらにするか。

(委員) ①の案ですっきりすると思った。「と」の部分は皆さんで検討していただければと思

う。

(委員長) 今までの議論の趣旨からすると、「及び」にするだけではなく、さいたま市のような表現にしないといけないのではないかと。名詞と名詞を繋ぐということでは「と」でも「及び」でも同じ意味になると思う。むしろ「市民活動の推進」と「協働の促進」が言葉として両方とも同じ「推進」にかかるところに違和感を感じているのかなと思った。市民活動と協働は同じように推進するものなのか、と言われると、市民活動の活発化・推進と、協働を政策的に進めていくということは、それぞれ進め方は違うと思う。そこを厳密に捉えるのであればさいたま市のような表現になるのかもしれない。

(委員) 「と」と「及び」に違いがないのであれば「と」がいいと思う。

(委員) 語感としては「と」の方がいいと思う。

(委員) 作った側の思い入れとは別に、市民目線だと検索のしやすさなど利便性が第一だと思う。「市民活動」「協働」「鎌倉」というキーワードがあれば、実際に活動されている方が利用する分には問題ないのかなと。そういう意味では①案②案どちらでも可能だと思う。

(委員) 個人的な思いとしてはつながる鎌倉条例を入れたいが、「条例」と「指針」という言葉が両方入るとわかりにくい。主題は①案で副題に「つながる鎌倉条例に基づいて」等とした方がよいのかなと思った。

(委員長) 大枠として、「と」と「及び」をどうするかは別として、主題が①案、副題に「つながる鎌倉条例」に関する文言を入れるということによろしいか。

(委員) 条例の下に指針と施策があるということがわかるようになっていると良いと思う。若干話が逸れてしまうが、素案の中にも位置付けがわかる表があるとわかりやすいと思った。

(委員) ①案がわかりやすいと思う。副題でつながる鎌倉条例を示すということについては、「つながる鎌倉条例をいかにするために」などとした方が、条例を進めるための指針であることがわかるのではないかと。パッと市民の方がわかる名称がいいと思う。

(委員長) 主題は①案、副題は「つながる鎌倉条例」の文言を入れたもので、事務局に案を作ってくださいということで良いか。

(委員) 了承

■ 今後のスケジュールと進め方について

事務局から、資料5「重点施策進行計画案」にそって今年度の当委員会のスケジュール及び今後の進め方について説明。

(委員) 資料5のタイトルについて確認したい。「重点施策進行計画案」となっているが、項目7の「中間支援組織の在り方」については指針の重点施策にはなっていないということで良いか。

(事務局) 資料5の項目7は重点施策ではないため、修正する。

(委員長) 事務局から冒頭に説明があったように、推進委員会はあと1回しか出来ないが、ワーキングという形でオンライン会議を併用するなどして、課題についてアイデアを出したり円滑な推進の仕方を考えていけたらと思う。今ワーキングのメンバーを決めた方が良いか。

(事務局) オンライン会議等の具体的な事項については、後日事務局からお知らせさせていた

だく。

(委員長) オンラインでの実施が主になるイメージか。

(事務局) 極力、対面での会議は避ける方向で考えている。

(委員) ワーキングには、検討事項に応じた分野の専門家を呼んでみたいと思っていたが、予算の関係で難しいか。

(委員長) 今年度は難しいのだと思う。例えばどのような専門家か。

(委員) 基金であればファンドレイザーなど、検討事項に応じた専門家を呼ぶイメージ。

(委員長) 今年度は難しいかもしれないが、今後具体的に議論を進めていく中で検討しても良いと思う。

(委員長) ワーキングはメンバーを固定するのか。参加できる人が随時出るイメージか。

(事務局) 固定メンバーではなく、融通を利かせながら進めていきたいと思っている。

(委員長) 世話役は1人いた方がいいと思う。後は、テーマに関係する時に出席するという形にする。

(委員) 皆さんがよければ、ワーキングの世話役を担当したいと思う。いかがか。

(委員) 了承

(事務局) NPO センターの方で場の提供に関する取り組みがあるとのことであるので、委員から、お話できる範囲で紹介していただけたらと思う。いかがか。

(委員) 鎌倉駅近くにあるカフェのスペースの一角について、地域の人との交流の場として活用したいというオーナーからの提案がある。今後話を詰めていきたいと考えている。

(委員) 実績が一つできると、次につながる可能性もあるので、ぜひ進めていただきたい。

(委員長) 他に意見等はあるか。

(委員) 特になし

(事務局) 次回は11月頃を予定している。決まり次第ご案内させていただく。

■ その他

特になし